

## 第44回横浜開港祭で艦艇の一般公開実施 「護衛艦「いなづま」」に1万人を超える来場者



自衛隊神奈川地方協力本部は「第44回横浜開港祭」において、海上自衛隊護衛艦「いなづま」の一般公開を実施した。艦艇の一般公開の会場となった横浜ハンマーヘッド9号岸壁（横浜市中区）には、5月31日および6月1日の2日間で約1万1千名の来場があった。

初日はあいにくの風雨に見舞われたが、熱心な見学者が多数来場した。中でも艦艇イベントの常連である中学2年生の道上奏音（みちうえかなと）くんは、神奈川地方協力本部長の大谷三穂1等海佐とすっかり顔なじみで、笑顔であいさつを交わし、艦長の吉田潤2等海佐に自筆の護衛艦「いなづま」の絵をプレゼント。艦長から記念のメダルを贈られると満面に笑みを浮かべ、「将来は海自に入り護衛艦いすもに乗りたい」と語っていた。

2日目は好天に恵まれ、来場者数も大きく増加した。この日は、神奈川地本のスクールモニターを務める大学2年生の田中萌美（たなかめぐみ）さんが、「1日艦長」に任命された。田中さんは海上自衛隊の白い夏制服に身を包み、双眼鏡を手に艦長席に座り、艦橋から艦内放送で挨拶。上甲板では来場者との記念撮影に応じ、子どもたちから「かっこいい!」と声が上がっていた。任命式後には艦内の特別公開も実施され、横浜開港祭親善大使4名も参加し彩を添えた。

岸壁では航空自衛隊中部高射群第2高射隊による水タンク車や炊事車などの装備品を展示するとともに、陸上自衛隊高等工科学校吹奏楽部による演奏も行われ、観客から大きな拍手が送られた。

神奈川地本のブースには、県内各地の募集案内所から広報官が集結。ちびっ子自衛官制服試着、南極の氷展示、自衛官採用制度説明などを通じて、多くの来場者と交流を深めた。地本キャラクター「はまにゃん」も登場し、子供たちの人気を集めていた。

神奈川地方協力本部は、「今後もあらゆる機会を通じて自衛隊への理解を促進し、防衛基盤の拡充を図っていききたい」としている。

